

明野町 「水」に関する石造物の紹介

「かやぶんかわら版」33号では馬頭観音像についてお話ししましたが、今回は、明野歴史民俗資料館で現在開催している第10回企画展「水にまつわる話」に関連して、「水」に関する石造物として、「水神」についてご説明したいと思います。(内海)

北杜市埋蔵文化財センターと明野歴史民俗資料館のある明野町を歩いていると、たくさんの石造物に出会えます。『新装 明野村誌 石造物編』(平成7年刊)によると、1864体あるとされています。

「水神」は、飲料水や農業用水などの水を司る神であり、また洪水や火災を防ぐ神でもあります。そのため、水路や水源地、井戸の傍らに祀られることが多く、人々は、干ばつの時に詣でて雨乞いの祈願などをしました。明野町内には9基の水神があります(既出『新装 明野村誌 石造物編』より。現在確認できるものは7基)。その中から何点かをご紹介します。

①小笠原地区

寺域にある池の近くに祀られています。



②大内地区

今は水はありませんが、写真手前部分が、かつては「弁天池」という池でした。



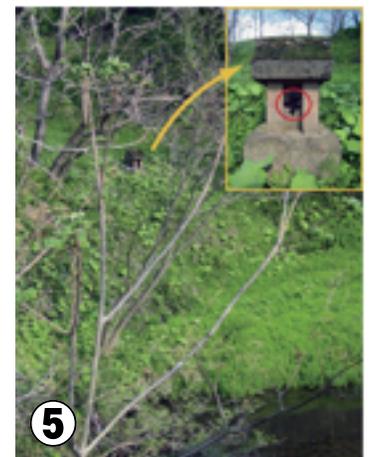
③北組地区

「水神」だけでなく、「神明社」「弁天」※1を合祀している石造物です。



④永井地区

管理されている水源の隣りに祀られています。



⑤中込地区

湧水の近くに祀られており、「水」という字が彫り抜かれています。

※1

「弁天」とは「弁才天」のことで、元々「弁才天」は古代インドの河神であり、日本に伝わり、水神や農業神と結びついたため、水辺などに祀られ、干ばつの時に降雨祈願などがされた。「弁才天」はその他、芸能神などの性格も持つ。

水が豊かでなかった茅ヶ岳山麓では、「水」の有無に生活がかかっていました。それゆえ、日照りが続くと、人々は神に降雨を祈りました。当時の人々の感じながら、道端の石造物を眺めてみてはいかがでしょうか。